

キャンプ イン キャンパス ～豊かで人間らしい避難生活を大学キャンパスから～

CAMP in Campus the regional education for well-being

法政大学 水野研究室 CREW

学生氏名：駒嶺マナ，竹内駿平，花木陸人，南陽太，宮本美来
担当教員：水野雅男

法政大学 現代福祉学部 福祉コミュニティ学科 水野研究室

「避難生活は体育館で雑魚寝」はもう古い！？災害関連死，プライバシーの欠如，ペット・乳幼児連れの居心地の悪さ…それら全てに配慮する「豊かで人間らしい」避難生活の実現を目指す！
法政大学多摩キャンパスにてテントを用いた野営避難生活の実証実験を行っています。

キーワード：避難生活，キャンプ，大学キャンパス，well-being，フェーズフリー

1. 100年前から変わらない避難生活

関東大震災から100年。そして今年の1月には令和6年能登半島地震が発生。災害大国として幾度となく自然災害に見舞われる日本では、その度に避難生活を余儀なくされてきた。しかし、「体育館で雑魚寝」スタイルの日本の避難生活は、100年前の関東大震災から進歩することなく今日を迎えている。

避難後の心身の負担によって引き起こされる災害関連死は、これまでに5,000人を超え、能登半島地震でも185名が災害関連死として認定されている。私たちはこの現状に問題意識を持ち、「豊かで人間らしい」避難生活の実現を目指すべく活動を続けてきた。



2. 避難生活に新たな選択肢を

当研究室では、法政大学多摩キャンパスにて、野営避難生活を想定した実証実験「CAMP in Campus」を年4回開催している。参加者はキャンパス内にテントを張り、緑豊かで広大な敷地の中で、各々の時間を過ごす。従来の屋内の避難所に見られるような「我慢」や「集団生活による苦痛」は存在せず、ペット連れや乳幼児連れを含む多種多様な属性の人が快適に過ごせる環境であることが、実験を通して見えてきた。

私たちはこの取り組みを大学コンソーシアムで展開し、さらには大学の垣根を越えた、地域や自治体との検討チームの結成実現を提案する。

3. CAMP in Campus とは

CAMP in Campus は過去10回に渡り開催され、実証実験としてその取り組みを前進させてきた。バーベキューグリルを活用した温かい食事の提供や、広大な敷地を活用したレクリエーションの実施、学内の教室を活用した意見交換会など、キャンパス全体を有効活用しながら、新しい避難生活のあり方を実験している。

また、私たちは唾液採取によるストレスチェ

ックやテント生活中の睡眠データの記録を行い、野外で避難生活を送ることでどれだけのメリット/デメリットがあるのかを、具体的な数値を根拠として調査している。

過去参加者の中には、地域住民の方をはじめとして、アウトドア製品会社の開発担当者や、能登半島地震ボランティア経験者、市議会議員、自治体職員などが参加しており、回数を重ねるごとに大学や地域を超えた輪の広がりを実感している。



4. 大学コンソーシアムへの提案

そこで、今回私たちが提案したいのは、大学コンソーシアム八王子に加盟している大学間で、まずは防災に関する検討チームを結成し、防災意識・防災力の底上げを図るということである。災害時には地域住民の避難所になりうる大学であるが、現状を見ると、大学間同士の連携はおろか避難者への対応さえも曖昧ではないだろうか？

災害時の対応や備蓄品の確認、学生が災害時スタッフとして動けるような学生向けの全体公開講座の実施など、災害時命を守るために必ず必要になることを、根本から見直す検討チームを「大学の垣根を越えて」結成する。

まずは大学コンソーシアム八王子の加盟大学から防災の連携を強め、最終的には各大学でCAMP in Campus を実施していく体制を整えたい。

5. 実現性を踏まえた展望

そして、災害時には体育館だけでなく大学の敷地を最大限に活用しながら、野外でも避難生活を送れるように各大学で実験を積み重ねていく。更に実験から得ることのできた情報や、各

大学が持つ特性等(備蓄品の数や地形情報等)を共有しながら、災害時の対応をより明確にした活動を目指す。

そうすることで、ペット・乳幼児連れの方や、何らかの配慮が必要な方が災害時に避難してきた時でも、しっかりと受け入れられる基盤を持つ大学、更には各大学間だけでは対処することの出来ない緊急事態が起きた場合でも、大学同士の繋がりによって柔軟に対応し、豊かで人間らしい避難所生活を実現することの出来る連盟をこの八王子から目指したい。

先日、法政大学多摩キャンパス近くの寺田配水所にて実施された応急給水訓練に参加した際、市役所職員が到着するまでの数時間、大学が給水所の管理をすることで、地域住民のニーズにいち早く応えることができるとの話があった。大学キャンパスは広大な敷地を有しており、地域住民の一時避難所としても有用である。

民間主導の避難所だからこそできる迅速な対応や、限定的なニーズへの対応ができることに意義を見出した上で、「豊かで人間らしい避難生活」CAMP in Campus を官民連携のプロジェクトとして進めていきたい。

CAMP in Campus プロジェクトの推移と展開計画

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
協中課題 課題解決型 FW for SDGs	I: 避難生活の デザインと関連 するツール制作	II: 地域産材の 活用と避難生活 所家具製作	III: 避難者の多 様性理解と避難 所開設政策提言	IV: 市+各キャン パス内での 避難所開設運営 検証			
調査研究		東京都と大学との 共同事業	地域安全学会 研 究員大塚隆			湯山グループからの寄付研究	
実証実験	第1回11月 ダイキャンプ (30名参加)	第2回10月 1回2日 (37名参加)	第3回11月 子育て実験 1回2日 (38名参加)	第5回5月 学生も参加1回2日 (31名参加)	第6回8月 能登と連携2回3日 第7回11月 市+各キャン パス実践2回3日 第8回3月 同上2回3日	第9回6月 能登半島地震 1回2日 (30名)	週末休館中 の災害時 キャンプ判 用
シンポジウム		研究会第1回シン ポジウム	第3回多摩 シンポジウム	SIC地域交流デー			
受賞	「実践と大賞」 特別賞		フェーズアワー アワード2022 企業部門ゴールド			「実践と大賞」	
連携協定				法政SIC内プロ ジェクトと連携			メンバー等 と包括協定 周辺自治体 と防災協定